

1. 会社紹介(震災前)

- ・ 創業明治41年 会社設立昭和41年 105年

⇒ 南三陸の木をブランド化してゆく

2011年3月1日 全国林業経営者コンクール(代々木体育館) 優勝
農林水産大臣賞

2011年3月11日 東日本大震災

長い揺れ

避難指示 ⇒ 最後に自分も高台へ ⇒ その後、社員と二人で降りる

⇒ 津波 …… 圧倒的な自然の力 ⇒ ギリギリのところを裏山に駆け上り、命を拾う。

⇒ 工場・事務所・自宅は一瞬で流出

⇒ それから一週間ほど、避難所で朝、おにぎり1個とペットボトルの水をもらって

社員の安否確認と午後はまっさらとなった会社の跡地でペタッと座って茫然としていた。そこは、亡くなった方たちがそのままの状態の、生と死が混沌とした空間であった。

津波で工場が飲み込まれた直後は「すぐ始めるから……」と社員を鼓舞していたが、改めて無の空間となった町を目の当たりにして「もうだめか…… 何から始めたらいんだろう」と無力感に包まれた。

人の社会の儂さを痛感した。

しかし、その一方、山は緑が鮮やかになっていく。海は生々しい程に青々としている。

その自然から……。「そうだよ……。人の社会なんてそんなものだよ。でも、だからこそ貴重なんだよ。平凡な暮らしは当たり前ではない。おまえの立ち位置で、人の為に頑張んなさい。」 そう言われている様な気がした。

⇒「よし、やろう！ 自分は死んだかもしれない人間だ。でも、生き残った。生かされた。

これは、たまたまじゃない。やるべきことを与えられたんだ。」

⇒ それは何！？ ⇒ かけがえのない平凡な貴重な暮らしを、

木の力を輝かせることで支える事

⇒そこから、会社再建に一気に動き出した …… ただ、いろんな事情があり遅れに遅れた ⇒ 1年1か月後の2012年4月11日に再始動

世界の森林率は30%

また、1990年の40億haから2000年には39億haへと毎年1000万ha減少

→ それに対して日本は国土の67%が森林 森林率では世界第3位

また、蓄積量は1995年の35億m³から2002年には40億m³へと増加している

統計上、毎年8000万m³ずつ増加している。(これは、日本の木材の総需要量とほぼ同じ)

また、人工林だけを見ても、1036万haで国土(3800万ha)の25%以上が人工林

(全体で2500万haの森林面積の41%が人工林)

森林利用率(木材の伐採量を成長量で割った値)(つまり成長した木をどれだけ利用しているか)

… フィンランド、スウェーデンは0.7

ベルギーは0.9で最も高い ポルトガル、スイスが0.8

オーストラリア、チェコは0.7

… 日本は…… 0.4 日本より低いのは、メキシコと韓国の2国だけで0.1

こういう背景の中で、

国産材を使う動きは、国の施策の森林・林業再生プランをはじめ、活発にはなってきた。

この先更に市場を広げる、もしくは新市場を築いていかななくてはならない。

市場を広げる、新市場を築くためには、付加価値をどうつけていくかが大事。

1. 工業製品化を強める
2. ローコストを徹底する

いずれ、色々な付加価値の付け方があると思うが、

付加価値の方向性をどうするのかは、その会社社の理念・哲学が示す方向性による。

丸平木材の方向性

経営理念でもある「地木の力を輝かせる」という事

現在の丸平木材の加工の98%を占めるのは杉

では、「杉の木」の力とは!?

1. 優れた空気清浄材である(危険な物質を取り除いてくれる)

- ・ NO₂(二酸化窒素)を外気よりも70~80%減少させる
NO₂は、せきやたんの発症や急性呼吸器疾患を誘引する有害物質
肺の奥にまで簡単に到達する
- ・ ホルムアルデヒドやオゾンなどの有害物質も吸収する
- ・ 正倉院(校倉造り)は、檜の造りだが、宝物を収納するカラビツは杉で造られている。
それはこの、杉の空気清浄機能を利用したからと最近解明された。

2. 優れた調湿作用

正倉院の湿度変化(成瀬正和氏が調査)

	最高	最低
屋外	100%	16%
校倉造り(檜)	87%	46%
カラビツ内(杉)	77%	57%

(a)

熱中症はなぜ起こる！？ …いくら汗をかいても体温が下がらないから(無効発汗)
気温と湿度を足した値が110を超えると熱中症が多発
すると言われる。

…いかに湿度が重要かがわかる

(b)

インフルエンザに代表されるウィルス生存率は温度・湿度が低くなると高くなる。
逆に湿度が50%以上だと、急激にウィルス生存率は下がり、生存率は3%程度まで
激減するという。

…やはり、湿度の重要性がわかる。

3. 有益な物質を放出する

杉の香りは脳と自律神経に作用して、鎮静効果・リラックス効果があるといわれる。
(逆に檜は、覚醒効果がある。)

その杉の効能の原因物質を、京都大学の河合秀一教授が解明された。

- ・ 天然セキステルペン類(頭がすっきりして、健康増進や思考能力を高める)
- ・ セドロール(副交感神経を高め、血圧を低下させたり、心拍数を減少させたりといった鎮静効果がある)
- ・ サイトカイン活性(炎症反応や免疫を調節したり、造血を促進)

それ以外にも解明されていない、まだまだ多くの木の力がある予想される。

杉の木のはすごい！！ … Cryptomeria Japonica(隠された日本の財産という意味)

まさに杉は国力の重要な要素のひとつ

しかし、どんな加工方法をされた木でも、木の力を発揮してくれるのか！？

否。これは生きている木だからこそである。

生きている木とは何か！？ 細胞が壊れていないこと。酵素が生きていること。そして豊かな精油成分を失っていないこと。

これこそが木の命の要だと思う。

「もったいない」とはそのものの持つ本質・価値を引き出さずに終わることだと思う。

木の力、木の本質を殺してしまうことは、本当にもったいない。木の本当の付加価値を捨ててしまっている。木が本来持っている潜在能力を引き出すことが、最も大きな付加価値を、かけがえのない暮らしに提供することができ、またフィードバックして山も生き生きとした生命力を取り戻すと思う。

人間の文明がどんなに進化しても、自然の力は、圧倒的に強く、そしてまた豊かである。

その自然に畏怖の心もち、謙虚になることを今回の震災は教訓としているのではないかと思う。

自然の猛威は、圧倒的に破壊的であるし、また大きな恵みも与えてくれる。

それはまさに表裏一体なのだと思う。

「感謝の心」、それが心の豊かさの源ではないか！？

木は、山の生命エネルギーの結晶。(適正に管理された杉林は生物多様性に満ちている。)

丸平木材は自然の大きな恵みである木の力を輝かせることで、健康と心の豊かさという付加価値を提供したいと思う。

それによって、かけがえのない普通の、貴重な平凡な暮らしに貢献したいと思う。